



平成 23 年 3 月 31 日

各 位

会 社 名 株式会社 アテクト
 代表者名 代表取締役社長 小高 得央
 (J A S D A Q ・ コード 4 2 4 1)
 問い合わせ先
 責任者役職名 管理ディヴィジョンリーダー
 氏 名 飯野 磨
 T E L (072) 967 - 7000 (代表)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成23年3月期連結累計期間(平成22年4月1日～平成23年3月31日)および個別累計期間(平成22年4月1日～平成23年3月31日)の業績予想について、平成22年4月28日付当社「平成22年3月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

1. 平成 23 年 3 月期 連結累計期間業績予想の修正等 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	4,111	285	247	176	53 円 02 銭
今回予想 (B)	3,120	0	△ 95	△ 115	△ 34 円 49 銭
増減額 (B-A)	△ 991	△ 285	△ 342	△ 291	—
増減率 (%)	△ 24.1	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	3,359	55	42	△ 68	△ 20 円 51 銭

2. 平成 23 年 3 月期 個別累計期間業績予想の修正等 (平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日)

(単位：百万円、単位未満切り捨て)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回予想 (A)	3,091	154	153	82	24 円 89 銭
今回予想 (B)	2,780	100	50	20	6 円 00 銭
増減額 (B-A)	△ 311	△ 54	△ 103	△ 62	—
増減率 (%)	△ 10.1	△35.1	△67.3	△75.6	—
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	3,103	246	234	121	36 円 42 銭

3. 業績予想の修正の理由（連結）

主として、半導体資材事業および新規事業の予想を見直した結果、通期業績予想を修正いたします。

当社の主力事業の半導体資材事業におきまして、期初より好調に推移していた受注が、第2四半期頃から欧州経済不安による需要の伸び悩み等により、顧客であるパネルメーカー等において急激な生産調整が始まりました。そのため、当事業での第2四半期および第3四半期が赤字となったことが原因で、通期においては計画を達成できない見込みであります。第4四半期では中国・台湾の旧正月商戦から受注が回復し黒字に転じる見込みであります。本格的な需要回復は、2011年の夏場を見据えた4月以降になるものと思われ。その結果、半導体資材事業の売上高は当初計画値 2,015 百万円に対し 1,438 百万円と△577 百万円の差異、営業利益は当初計画値 211 百万円に対し 78 百万円と△132 百万円の差異となる見込みです。また、来期以降の半導体資材事業の収益に寄与させるため、2011年11月台湾高雄市に子会社を設立しており、その開業費を営業外費用に計上しております。

衛生検査器材事業につきましては、前年同期並みの計上となる見込みであります。

プラスチック造形事業の株式会社ダイプラにおいて第2四半期以降は黒字が続いており、同社の収益力が確実なものとなってまいりました。しかし、当事業のセグメントではのれん償却の負担により、プラスチック造形事業の売上高は当初計画値 366 百万円に対し 267 百万円と△98 百万円の差異、営業利益は当初計画値 0 百万円に対し△36 百万円と△36 百万円の差異となる見込みであります。

ポリマー微粒子事業のトライアル株式会社におきまして、当第2四半期に衛生検査器材事業とともに中国上海市に販売拠点として子会社を設立し、自動車開発を積極的に推進している中国市場に進出しております。それにより、中国の自動車業界における三次元積層造形用材料としてポリマー微粒子がデファクトスタンダードとして認知される下地作りを進めております。その結果、2011年3月度は初めての単月黒字となる見込みであります。そして、中国子会社の営業許可手続きが完了した第4四半期において、当事業の売上高が衛生検査器材事業の売上高よりも大きくなっており、今後、当事業を中心に中国での営業活動を推進させ、当事業の収益に寄与できるように進めてまいります。しかしながら、国内では年間を通して自動車業界における研究開発費の支出抑制の影響が原因にて、ポリマー微粒子事業の売上高は当初計画値 96 百万円に対し 38 百万円と△57 百万円の差異、営業利益は当初計画値△36 百万円に対し△62 百万円と△25 百万円の差異となる見込みであります。

新規事業のP I M事業につきましては、エネルギー関連、自動車部品での開発が進みつつあり、先行投資を早期に回収すべき技術開発を推し進めている段階であるため、P I M事業の売上高は 14 百万円、営業利益は△70 百万円となる見込みであります。

以上の結果、売上高は連結 3,120 百万円（前回発表予想値 4,111 百万円）、営業利益は連結 0 百万円（前回発表予想値 285 百万円）となる見込みであります。

経常利益につきましては、営業利益の見込みや海外子会社開業費と為替差損の計上等により、連結△95 百万円（前回発表予想値 247 百万円）と前回予想値を下回る見込みであります。

当期純利益につきましては、上記経常利益の見込みから連結△115 百万円（前回予想値 176 百万円）となる見込みであります。

4. 業績予想の修正の理由（個別）

個別の修正につきましては、半導体資材事業が主因となっており、修正理由は連結業績予想をご参照ください。

以上の結果、売上高は個別 2,780 百万円（前回発表予想値 3,091 百万円）、営業利益は個別 100 百万円（前回発表予想値 154 百万円）となる見込みであります。

経常利益につきましては、営業利益の見込みや海外子会社設立準備費と為替差損の計上等により、個別 50 百万円（前回発表予想値 153 百万円）と前回予想値を下回る見込みであります。

当期純利益につきましては、上記経常利益の見込みから個別 20 百万円（前回予想値 82 百万円）となる見込みであります。

なお、配当予想に関しましては変更ありません。

※ 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成されたものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる可能性があります。

以 上